

JB Customer Report

カスタマーレポート

ORPHIS FT

岐阜県内で、実際に機械をご導入いただいたお客様の「生の声」をご紹介します！

取材：営業部 営業企画推進課

土岐市立下石小学校 様

2022年4月に導入した ORPHIS FT5231 について、土岐市立下石小学校 教務主任の小野木様にお話を伺いました。

学校現場でのオフィスの重要性

2015年に初めてORPHIS EX7200を導入し、今回のORPHIS FT5231の導入で2台目となります。スピードが速く・コストが非常に安いORPHISは現在では、当学校になくはならないものですが、ORPHIS導入前は低速のコピー機・プリンターで印刷作業を行っていましたので、資料を作るのに相当時間がかかっていましたし、印刷単価も高いのがネックになっていました。

単一原稿を大量に印刷する場合は、リソグラフで印刷するとスピードが速くランニングコストが安いですが、原稿が多くなる資料作成の場合は両面印刷時の乾燥時間や原稿の製版に時間がかかってしまうことや、丁合やステープルの後処理が手作業であることから印刷業務への不便さをとても感じていました。そんな中で先にORPHISを導入している学校から「学校現場にはORPHISはとても使い勝手がいいよ！」と聞いていたこともあり、職員の負担軽減と利便性向上のためORPHISを導入しました。7年の契約が切れるタイミングでもORPHISの学校での価値は変わっておらず、当然のように2台目へ更新を行いましたね。

毎日先生方は多くの印刷業務があって、授業と授業の合間の時間など決まった少ない時間で印刷されることも多く、スピードの速いORPHISはいろんな形の印刷業務に対応できてとても役立っていますよ。また、授業中に生徒に配る資料もカラー印刷をした方が効果的な場合もある為、授業で使用する資料はカラー印刷をすることも多々あります。ORPHISはコピー機と違ってカラーを使用しても1枚当たりの単価は圧倒的に安いので、コストを気にせず安心して生徒達にカラー化した資料を作って配ることができています。

“やりたい”を“できる”に変える

当校では6月と3月の年に2回の広報誌(全8ページ、フルカラー)を作成しています。児童と地域に配布していますので1回の作成では約550部印刷になりますが、ORPHISが導入される前は、外注で広報誌を作成していました。ORPHIS導入により、完了データ作成だけを外部に依頼し、印刷作業は学校内で行うことができるようになりましたので、費用を大きく抑えることができましたし、必要部数を必要な時に印刷できるようになりましたのでその点でも助かっています。ORPHISの印刷スピード・処理スピードがあるからこそその成せる業ですね。

その他、定期的に職員会の資料作成があり、丁合・ホッチキス止めの作業に難儀していましたが、現在はORPHISだけですべての作業が完了しますので体感的には1/3程の時間で資料ができあがりますね。昨今は職員会資料もデジタル化しつつあり、紙媒体で資料配布しない学校も出てきているようですが、手元に資料があってサッと見られるということに意味があると感じていますので、当校では紙で印刷し記録として残すようにしています。印刷業務自体をなくすことはできませんが、その作業をとても簡単にしてくれるORPHISがあることで、空いた時間を生徒達に向けたり他の仕事ができたりと有効に活用しています。

印刷業務とSDGs

ORPHISの機能に「確認コピー」があり、校内で多用しています。この機能を使うことでミスプリントを最小限に抑えられるため、大量印刷を実施する前には必ず使っていますね。最近ではミスプリントをなくす一環として、印刷のカラー選択も「自動」にしています。カラー印刷が出したいのに設定を変え忘れてモノクロで出てしまった、などということが減るのでこの設定を初期値にしています。

機能を工夫して活用することで、学校でもSDGs(持続可能な開発目標)の活動に繋げることができているのではと考えています。ORPHISはインクジェット機であるため消費電力がレーザー機よりも圧倒的に低く、生産性が高くても他の複合機等より消費電力を抑えられますので、日々の印刷業務からSDGsに貢献できていると思いますね。

営業担当者の声

この度はオフィスEXからFTの入替を頂きまして、誠にありがとうございます。導入目的として、教材のカラー化による学習効果UPもありますが、一番の課題が先生方の印刷作業負担の軽減でした。

印刷時間の短縮及び印刷後の仕分けやホチキス綴じが自動になり、働き方改革の一環として大きく貢献できている事をお聞きして、大変うれしく思います。また、今まで外注に依頼をしていたPTA広報の印刷もして頂いています。この他にもお役にたてる事がまだまだあると思いますので、どんなご提案ができるのか常に考えていきます。



営業担当：吉岡 宏訓

